

鍼灸師 榎本 守

带状疱疹後神経痛は带状疱疹の後遺症として起こる神経痛のことで、一度発症するとなかなか軽快しない難治性の症状です。この神経痛に悩まされる方は非常に多く、带状疱疹に後発して発症することから先発症状が発現しているときより適切な治療が必要になります。 带状疱疹とは、水痘带状疱疹ウイルスという、ほとんどの方が一度はかかったことのある水疱瘡（みずぼうそう）の原因ウイルスと同じです。このウイルスに初めて感染した場合は水疱瘡として発症し、やがて水疱瘡は直りますが原因ウイルスが死滅したわけではなく、発病しない程度に自己の免疫に抑えられて、体の中の脊髄神経節や三叉神経節で発病の機会を伺いながら潜んでいるのです。体調不良などの様々な理由により体の免疫力が低下すると、抑えられていたウイルスが活性化されて、左右どちらかの潜んでいた神経節に沿って体表ブロックごとに痛みと水疱を発現させる病気です。

带状疱疹の症状は、初めに神経に沿った痛みより始まります。もともとウイルスは神経節に潜んでいる訳ですからウイルスが活性化されて神経をたどって増殖するときに、神経を障害してしまうのです。いわゆる「ピリピリ」「チクチク」といった神経痛です。皮膚症状は発赤し、やがて水疱を形成し、黒く陥没した後乾燥してなくなります。

带状疱疹の治療は、皮膚に小さな水疱をみつけたら皮膚科に行って診てもらうことです。早めの投薬治療が合併症や後遺症でもある神経痛のリスクを減らすことができます。

带状疱疹後神経痛は、上記した带状疱疹発症後に後遺症として残ってしまう神経痛のことで、おおむね三ヶ月ぐらいまでの神経痛を带状疱疹神経痛とよび、それ以上を带状疱疹後神経痛と呼んでいるようです。この神経痛の痛み方は、ウイルスにより神経がダメージを受けているものですから、絶え間ないうずきや焼けるような痛み、または、皮膚を剥かれたような激しい痛み、寒さや衣類の接触で誘発される痛みなど耐え難い痛みであるために、心身ともに衰弱してしまうほどです。一般的に医科での治療は、普通の鎮痛剤では効かないので三環系や四環系抗うつ薬が処方されるようです。また、投薬と平行して神経ブロック療法も行われるようです。

この神経痛は慢性化をたどりますので、私のところでも治療を希望する方が多いです。私のところでは、鍼灸を使った疼痛のコントロールを行います。疼痛発現部位に特定の鍼による通電療法と交感神経にアプローチする治療法を行っています。

带状疱疹後神経痛はウイルスにより神経が損傷させられる求心路遮断性疼痛の代表格です。もともと軽快しづらい疼痛ですので、あきらめず可能性のある治療法を続けることが大切になるかと思えます。

※ 带状疱疹後神経痛とヘルペス後神経痛とは同じ意味です。

以上